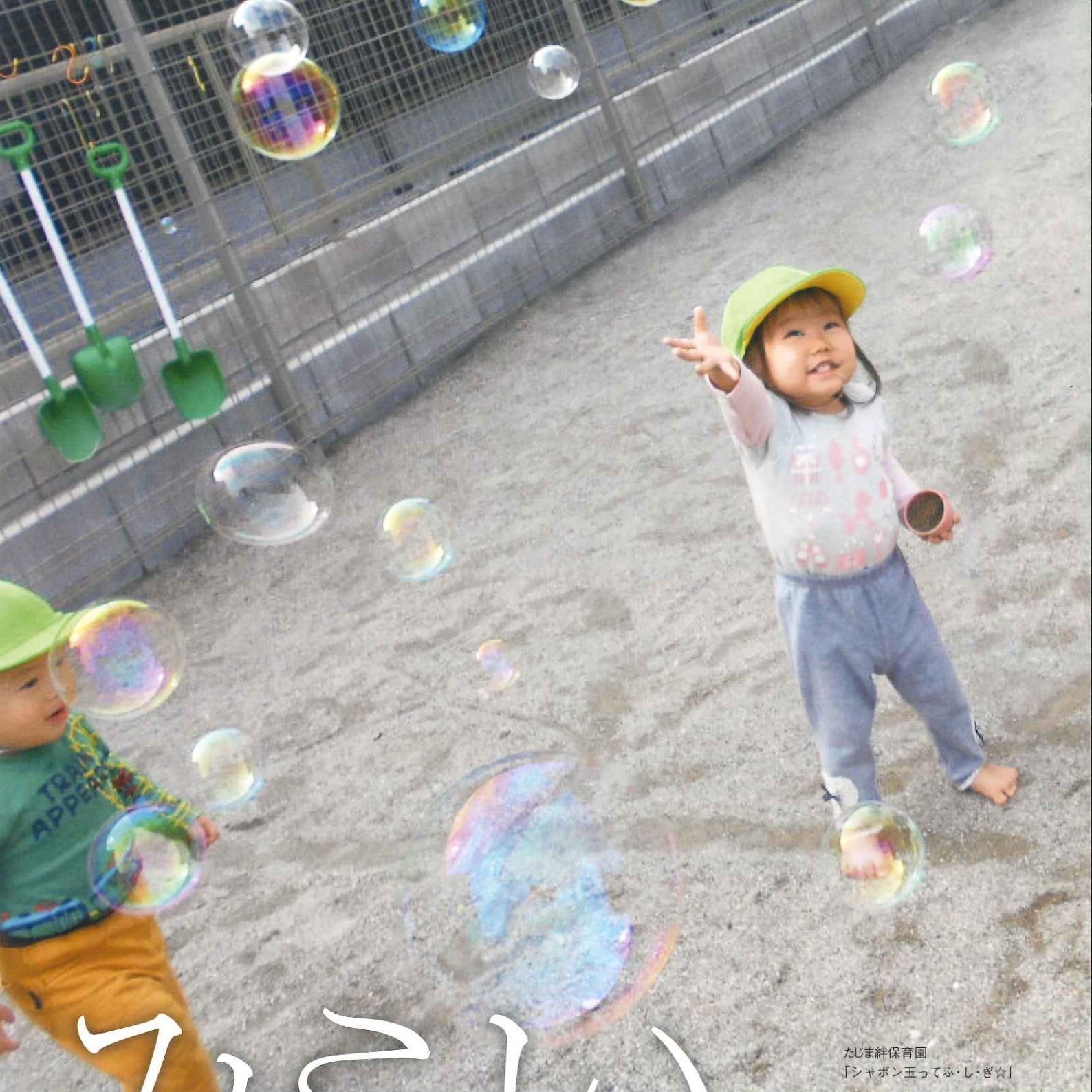




たじま絆保育園
「シャボン玉ってふ・し・ぎ☆」

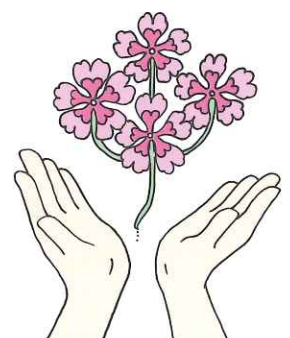
みらい

2018.1 (18)

一般社団法人 さいたま市私立保育園協会 広報誌

Contents

保育所保育指針、幼稚園教育要領改訂と保育課題 …P2～3
平成29年度 協会主催の研修報告 …P4・5
保育士就職説明会／新人研修会／「レーズンロック」レシピ…P6
わくわくがいっぱい!／編集後記…P7
保育園紹介…P8



平成三〇年を迎え、 指針の施行前に

平成三〇年が幕を開けました。協会にとっても新しい課題の始まりです。今年もよろしくお願ひいたします。

さて、「みらい」一七号で、保育所保育指針（以下「指針」）平成一一年、平成二〇年の改訂と今回の改訂の変遷とその内容について述べました。先の稿で触れませんでした。最初の指針は昭和四〇年にはじめて通知され、今回で四回目の改訂となります。指針は保育所のガイドラインとして、また、保育所にとっては保育内容の最低基準としての役割を担ってきました。今回の改訂（以下「新指針」）の内容についてはすでに研修や通達で把握されていることと思います。平成三〇年四月からの施行にかかわって、指針が意図することと私たちの保育課題についてまとめておきたいと思ひます。

保育所の福祉としての 役割と子どもの発達を 保障する

戦後、幼稚園が学校教育法に定めた教育施設として歩み出し、保育所が児童福祉施設としての役割を担ってきました。平成二七年に子ども・子育て支援法

の成立により新たに認定こども園がつくられ、それぞれ文科省、厚労省、内閣府による三つの就学前教育が存在するようになりました。認定こども園は就学前の保育が幼稚園と保育所という二つの施設を統一する方向を模索してきた過程の産物でもあります。

保育所は児童福祉法および児童福祉施設最低基準（昭和二十三年厚生省令六三三号）によって保育環境の基準や保育に従事する者の基準によって保育所保育の質を担保しており、保育所保育指針はすべての子どもの最善の利益のために保育所が行うべき保育の内容についての基本的事項が述べられており、保育所における一定の水準を保つための役割を果たしてきました。今回の指針の改訂は、保育現場にどのような役割を果たすのでしょうか。

今回の改訂、 幼稚園教育要領では

新しい幼稚園教育要領の前文で「…教育基本法第二条に掲げる次の目標を達成するよう行われなければならない」として基本法二条を引用し、「1幅広い知識と教養を身につけ…豊かな情操と道徳心を培う…、2…能力を伸ばし…3正義と責任…4…生命を尊び…5伝統

保育所保育指針、 幼稚園教育要領改訂と 保育課題

一般社団法人さいたま市私立保育園協会 会長 剣持 浩

と文化を尊重…」と述べています。そのためには「必要な教育のあり方を具体化するのが各幼稚園において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程」が要となるとして「幼稚園における教育的水準を全国的に確保するものとしてその充実にために要領が果たす役割を強調しています。そして、第一章では「幼児期の終わりまで育ってほしい姿」が「一〇項目にわたって述べられており、幼児の幼稚園修了時の具体的な姿であり、教師が指導を行う際に考慮…」しなればならないとしています。そのため、教育課程の役割や留意事項は第三章で述べていますが、

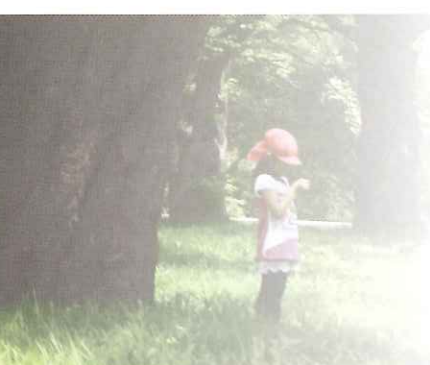
内容」でも「幼児期の終わりまで育って欲しい姿」が「ねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園修了時の具体的な姿であることを踏まえ、指導を行う際に考慮するものとする」としています。

このように、幼稚園指導要領改訂はこれまでの要領と大きく変わり、指導する側つまり教師の果たす役割が「一〇の育って欲しい姿」と結果としての「評価」が問われる形で幼児教育が展開されることになるでしょう。

保育所保育指針と保育

幼稚園教育要領が1号認定の子どもを対象とした「要領」であるが、今回の指針の改訂の大きな特徴は2号認定及び3号認定の児童を対象としたものに分類されたことです。これまでの指針では0歳から6歳まで連続した発達を踏まえ、各年齢の発達の特性を理解して、子どもの発達の道筋と保育所での生活の連続性を配慮して養護と教育としての保育を展開してきました。発達過程は八つの区分に分けて保育士が機械的に発達を評価しないように「おおむね…歳児」というタイトルで記述されました。新指針ではこの記述が割愛

されました。



「幼児期までに育って欲しい姿」と「教育」

保育の内容は大きく変わりました。「乳児保育に関わるねらい及び内容」「1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」「3歳以上児の保育に関わるねらい及び内容」の三つに分類されたことです。旧指針では「ねらい及び内容」の表記は「……動かす」「……生活する」「……自分でする」としていました。それが新指針では「……意欲が育つようにすること」「……気持ちの育つようにすること」など「○○すること」という表現に変わりました。この表現は「こうあらねばならない」「こうしなければならぬ」と強調しています。このように「○○すること」と断定した記述が保育士の一方的な対応に追われてしまっているのではないかと危惧します。保育士は、子どもの育ちを見るとき子どもが何に気づいて、何をしようとしているのかを読み取りながら、柔軟に対応できる幅広い保育観と子ども観が必要だし、子どもの気持ちをくみ取りながらどう援助していくかが必要です。小学校との連携では旧指針も触れられていたが、新指針では「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」（以下「姿」）を小学校と連携しながら共有し接続することを強調しています。

幼稚園教育要領でも最初の総則で「姿」が記述されていますが、新指針でも総則第1章の4に同じ内容が出てきます。その内容は「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」などの10項目です。「幼児教育を行う施設として共有すべき事項」の中で触れられているのですが、今回の改訂の底辺に流れる一貫した視点として見て良いでしょう。幼稚園教育要領のところで触れましたが、小学校へ繋ぐための「姿」が、保育の中でどれだけ到達できたかという「評価」が求められるようになり、保育課程及び指導計画も「評価」によって子どもの「評価」につながつていくのではないのでしょうか。平成二九年三月三十一日の文部次官名の通知で改正の概要について今回の改訂の基本的な考え方について次のように述べています。「子どもに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し……知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成……知識の理解の質をさらに高め……道徳教育の充実や体験活動の重視……として「何ができるようになるかを明確化」し「幼稚園における改善事項」についても、この観点で「知識



及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力の基礎」「学びに向かう力、人間性等」を明確にしたとして、五歳児修了時まで「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」として明確にした」と述べています。そして「幼稚園において、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむなど、教育内容の充実を図った」と強調しています。

これまで見てきたように、新指針は文科省の進める小中学習指導要領、幼稚園教育要領の改訂ときわめて密接な関係の中で進められたのです。「教育」視点で保育が実施されたとき、「能力」や「知識」や「技能」という三つの側面で子どもを見ることができるとはどういうことか？

広く子どもの可能性を信じて

子どもの貧困化、虐待、発達障害児の増加などどれをとっても子ども達が子ども時代を豊かに育っていく社会的環境にはありません。こうした社会的状況の応えた新指針となるのかあらためて考えてみる必要があるのではないのでしょうか。虐待された子どもは家庭の温もりを体験できず、「家族を大切にしよう

とする気持ちを持つ」ことができるでしょうか。親の収入によって学力や健康に格差が生まれている現実には子どもに「自分の力で行うために考えたり工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わう」ことや、朝食抜きの家庭が増え、夜型生活は基本的な生活習慣のリズムが破壊されている中で「心と体を十分に働かせ、見通しを持って行動し、自ら健康で安全な生活を作り出す」ことができるのでしょうか。

児童福祉法（一九四七年）は「児童が心身ともに健やかに生まれ、且つ、育成されるよう努めなければならない」とし「すべての児童は、ひとしくその生活を保障され、愛護されなければならない」としています。児童憲章（一九五一年）では「児童は、人として尊ばれる。児童は、社会の一員として重んぜられる。児童は、よい環境の中で育てられる。」として、「一二項目にわたって果たさなければならない目標が掲げられています。国が定めた法律と憲章の観点で、今回の新指針を考えてみることも必要でしょう。子どもの成長・発達は私達現場の保育者の果たす役割はきわめて大きいし、子ども一人ひとりの無限の可能性を信じて保育実践を深めていきたいものです。

自然体験講座

日程	場所	場所・参加人数	研修目的と内容
①春 5/23(火) 13:30～16:30	北本自然 学習センター	私立13名、公立15名	保育者が日々の喧騒から離れて自然の中で遊び、 座学の中から明日の保育に繋がるアイデアを学びます
②夏 7/5(水) 13:30～16:30		私立19名、公立15名	
③秋 10/25(水) 13:30～16:30		私立12名、公立15名	
④冬 3/2(金) 13:30～16:30			

北本の自然学習センターにて自然の中で座学と実践を交えた内容で、保育士のリフレッシュにもなり、公立の先生方にも多数ご参加頂きました。

【春・アンケートより】

- ・たくさんの自然物に触れることは難しいですが、自分の園でできることを考えて、子どもたちに自然の楽しさを伝えていきたいと思いました。
- ・園での活動では、公園など緑の多い場に出ることもあるので、ハチや毛虫の対応方法が学べたことが良かったです。
- ・たたき染めは、思ったよりも上手くできたので感動しました。石で叩くだけで、あんなにきれいに染まることに驚きました。
- ・話を聞くだけではなく、実際に屋外に出ることで身を持って体験できて、より子どもたちへの伝え方に気が付くことができました。
- ・園のまわりにどんどん家が建ち始め、以前よりも自然が少なくなってきましたが、少し歩けば田んぼも広がっているの、子どもたちと楽しみながら散歩ができればいいなと思いました。
- ・クモは、ほとんどが毒のないクモだと知り、勇気はありますが機会があれば触れてみたいと思いました。戸外の研修では、葉には色々な香りがあることを知り、保育に取り入れてみたいと思いました。
- ・草や葉のにおいをかいだり、四つ葉のクローバーを見つけるのは、保育にすぐに取り入れられると思います。たたき染めも年長さんならできると思いますが、記念になると思いました。

【夏・アンケートより】

- ・プランターピオトープやペットボトルでのピオトープ作りの話など、園に帰ってからできるのではないかと思います。葉っぱじゃんけんも身近な葉っぱを使って楽しめるのだなと感じました。
- ・本当の自然が何なのか、又、その中で豊かに遊ぶことを教えていただき、楽しい時間を過ごせました。少しでも保育の中に活かせたらと思います。
- ・野外で実際に目にして学習ができたので、童心に返った気持ちで楽しみながら学ぶことができた。私たちの周りにあるクスの木やエゴの木などが、貴重な原材料であることがわかって驚きました。ナナフシを間近で見ることができて感動しました。可愛かったです。
- ・子どもたちと外に行った時に「伝えたい」「話したい」と思うことがたくさんあったので、ぜひ今回学んだことを活用していきたいです。
- ・今まで自然と思っていたものが自然でなかったということを知り、驚きました。外来種についても驚かされることも多く勉強になりました。園のみんなに教えてあげたいことや日々の保育に活かしていきたいことがたくさんあり、参加して良かったです。

- ・基本的な自然の大切さを改めて学びました。自然の知識は、間違えていることが多かったことに気が付きました。夢中になって虫探しをして楽しかったです。



- ・自然について知り、今までの保育に疑問も感じたが、本当の自然探しにワクワクした。
- ・自然の中での遊び方や、子どもたちへの気づきなどたくさん参考になりました。早速明日から行ってみます。
- ・葉っぱじゃんけんが面白かったので、ぜひやってみたいです。ハチを見つけた時の対応も聞けて良かったです。
- ・自然を使った遊びや工作、虫の探し方などとても参考になりました。園庭が狭いため、プランターピオトープなどとても興味深かったです。園でもできたらいいなと思いました。
- ・くすの木は、くしゃくしゃビリビリにすると、スーっとするのにおいしくて虫よけのようだなと思ったのですが、まさに虫よけの成分が入っているとのこと面白かったです。自然のせつけんもあることを知り、植物ってすごいなと思いました。葉っぱじゃんけんをやってみようと思います。
- ・プランターピオトープをぜひやりたいと思います。花が好きで、子どもたちについて名前を覚えてしまっていたのですが、次回からは別の教え方や、子どもたちといういろいろな発見ができるようにしていきたいです。
- ・「自然とは何?」ということで、自分が普段触れていたものが自然でなかったことが、残念だと感じました。子どもの自然体験させることは難しいことだと思いました。公園内を散策して楽しかったです。勉強になりました。
- ・木の葉の香りをかいだり、虫を探したり、とても楽しかったです。園で子どもたちとやってみようと思います。七夕の短冊作りは葉で作ると面白いので、子どもたちに教えてあげたいです。
- ・もっと大々的にビデオやDVDなどに録画をしたりして、広めた方がいいと思う内容でした。野外学習はためになりました。工作も面白かったです。
- ・日本のものだと思っていたものが、外来種で驚きました。野外実習では、じっと座って10秒待ってみると、いろいろな虫に出会って面白かったです。葉っぱじゃんけんが面白かったので、子どもたちとやってみようと思います。

その他

さいたま市 保育士等研修会	2/17(土) 9:30～11:40	さいたま市民会館うらわ	大豆生田啓友先生 『いま、保育に求められること～保育指針改定を踏まえて～』	
さいたま市 保育研究大会 (実践発表)	①11/ 2 (木) 18:30～	浦和コミュニティセンター	菁莪保育園	『遊びや生活から見られる異年齢の関わり』
	②11/ 7 (火) 18:30～	浦和コミュニティセンター	彩の森保育園	『発達の連続性と音楽リズム遊び』
	③11/ 9 (木) 18:30～	浦和コミュニティセンター	ふたば保育園	『異年齢保育～お店屋さんごっこを通して～』
	④11/14(火) 18:30～	浦和コミュニティセンター	うらわライトハウス保育園	『子どもの心を育む土台作り～畑活動を通して～』
	⑤11/28(火) 18:30～	浦和コミュニティセンター	茶々すずや保育園	『野菜活動を通したコミュニケーションの広がりについて』
	⑥ 1 /20(土) 12:00～	さいたま市民会館おおみや	エンゼル乳幼児園	『朝の運動遊び』

今年度も、皆様お忙しい中、多くの先生方にご参加頂きありがとうございます。また、研修の中身をより充実させるため、担当の園長先生方には惜しみないご協力を頂き心より感謝申し上げます。今後ともさいたま市私立保育園協会の研修部を皆様と盛り上げていきたいと思ひます。ありがとうございます。

研修部部長 大宮日進さくらんぼ保育園 園長 吉川美喜江

主任研修

日程	場所・参加人数	研修目的と内容
① 8/28(月) 13:00～17:00	下落合コミュニティセンター・40名	『自分も園も輝くために～リーダーの意識で園が変わる～』
② 11/30(木) 13:00～17:00	浦和コミュニティセンター・50名	『三方良しの恐れない組織の作り方』

第1回目は40名の主任さんに参加して頂きました。冒頭に剣持先生よりお話をして頂き、与野ひなどり保育園の小林園長先生の進行のもと、『自分も、園も、輝くために～リーダーの意識で園が変わる～』をテーマに、グループワークを中心に研修を行いました。その後のアンケートでは、40名中37名が楽しかった、3名がまあまあと回答、何かひとつでも保育園に持ち帰るものがあった、とすべての主任さんが回答して下さい、横のつながり作りや主任の役割、自己分析など、それぞれ実になる研修となりました。

- 基本的欲求のアセスメントや自分が何タイプなのかのチェックシートなど、自分を知ることの出来る内容で楽しく参加できた。日々の保育や仕事にも生かしていきたい。
- 他の園のお話が沢山聞けたこと座学ではなく、それぞれが意見を出し合うことで、振り返ることが出来た。
- 様々な園の様子を知ることができ、同じ悩みを持っていることが分かり心強く感じた。また明日何を工夫していこうかという力になった。
- 他園の主任先生とお話しすることができ、「主任として」の大変さなどを話せてよかった。
- 書き出すことで、自分の考えを客観的にとらえられたような気がする。意見を積極的に言うのは苦手なので、ポストイットの使用はよかった。
- 自分の悩みを言葉にすることで、自分自身を見直しました。
- 問題点を解決していく方法、主任の仕事の仕方や心構えを知ることが出来た。
- 職員の意識をまとめることの難しさを感じたが、それが自園だけではないことも知り、解決策や対応も学ぶことができた。
- 主任としての立ち居振る舞い、主任の仕事の重要性・責任の重さを再確認した。
- 全体を見つめる眼が必要。保育だけ、職員間だけでは解決しない。園全体の目で解決していくことが大切。
- コミュニケーション、職場環境も大切であること。
- ファシリテーションを使い、園内研修や楽しく話し合いの場を設けることが出来ることを学んだ。
- 相手の意見を笑顔で聞くことで、安心感を与えることができる。問いの大切さ。
- 職員間のトラブルが起きた場合の、主任としての対応の仕方。
- 重要度、緊急度の高いことをまとめてみたいと思った。
- 自分はどのような人間であるかがある程度把握でき、足りない物の埋め方を改めて考えられた。
- 仕事は多様だが、「心のゆとり」を持つことが必要。
- 安心感、少しの自信を得ることが出来た。
- 保育園を良くする為に、どのように話し合い、解決をしていったらよいのか、話し合うことでヒントを頂きました。
- 人材育成、人間関係、保育について等、意識の向上とコミュニケーションを大切にすることで、園全体のことに繋がっていくと感じた。
- 主任としてのものの考え方が分かった上で、会議や話し合いで活発な意見交換が出来る方法を得た。

保健衛生情報交流会(看護師交流会改め)

日程	場所・参加人数	研修目的と内容
① 6/15(木) 14:00～16:00	さいたま市宇宙劇場・56名	『摂食』
② 11/13(月) 14:00～16:00	下落合コミュニティセンター・33名	『感染症について』

① 研修部部長 大宮日進さくらんぼ保育園 吉川園長先生より・・・

看護師、保育士、保健担当者等のいろいろな立場の人が一緒に学べる良い機会だと思う。後半のグループワークでの情報交換の内容を活かせると思い。また、感染症やアレルギー対応について各園で困っている事についての意見を出し合い、健康管理に関する対応連絡協議会に向け参考とさせて頂きたい。

② DVD鑑賞「保育園における感染症対策」

- 手洗い • 排便時のおむつ交換 • 嘔吐の処理 • その他

③ グループワーク:

- DVDで観た「手洗い」をやってみよう

北浦和駅前保育園 伊藤園長先生よりレクチャーしていただき6つのグループに分かれて代表1名が「手洗いチェッカー」を使用して実践する。

手順

1. 専用塗料を両手の平、指の間、甲、手首にまんべんなく塗る。
2. 水で普段の通りに手を洗う。
3. 手洗いチェッカー(ブラックライト)を当てて洗い残し(塗料の残り)を確認する。これにより汚れが残しやすい箇所が確認できる。
4. “手の洗い方”に倣い再度洗う。洗い残しのあった箇所は特に良く洗う。

5. 再度手洗いチェッカーに当てて塗料が落ちているか確認する。

※他のグループメンバーも洗い残し箇所や再度洗った後の塗料の状況を一緒に見て確認する。

- 各園の感染症対策、流行状況、困っていること等の情報交換
- 各グループ発表(別紙参照)

④ 総評 遊美保育園 看護師 高橋先生より

- 今回のDVDの内容を全て行うことは難しいと思う。この内容を参考に各園に合った内容を行っていかると良いと思う。
- 0歳児のおもちゃ洗いについて、厚労省は1日1回を推奨している。
- 感染症サーベイランス導入について、ぜひ、さいたま市または各区で検討して欲しい。この保健衛生情報交流会では起こった感染症についての報告はあるがそれでは後の祭り。今、どこで何が流行しているのかを知ることが感染拡大防止に繋がる。
- 子どもたちだけでなく保護者への保健指導が必要。日頃、保護者とコミュニケーションをとることで園からの話を聞いてもらえる雰囲気を作る。園だけでは感染拡大は防げない。園と家庭と地域の医療機関で連携を取っていくことが大切。

保育園見学会

昨年度のアンケート調査から「小規模保育園やナーサリールームを見学したい」とのご意見が多かったため、今年度実施しました！新都心ひなた保育園の柳原園長先生のご協力のもと、小規模保育園とナーサリールームを同時に見学できるツアーが実現いたしました！それぞれの施設や保育の工夫など、各園での参考にして学べる機会になれば嬉しいです。

保育士就職説明会

9月9日(土)・10月28日(土)



9月9日(土)と10月28日(土)、協会主催の就職説明会を彩の国すこやかプラザにて開催いたしました。

1回目の参加者は約15名、2回目の参加者は約30名でした。

その中にはさいたま市が主催の保育体感ツアー事業に県外から参加された学生の方もあり、皆さん熱心に各法人の説明に耳を傾けておられました。

雇用に結び付けられるよう、今後も継続して開催をしていく予定です。

新人研修会

3月28日(火)



平成29年3月28日(火)に行った、第1回新人研修会が大変好評でしたので、第2回を平成30年3月27日(火)に行います。

研修の内容は、マナーについて・安全管理について・アレルギーについて・わらべうた・リズム運動などを予定しております。

該当職員の参加にご配慮頂きますようお願いいたします。

詳細につきましては、別途お知らせいたします。

レーズンロック

今年度食育部では「鉄分の多い料理」をテーマに、9月20日(火)国際学院埼玉短期大学において調理講習会を行いました。中でも好評でした「レーズンロック」のレシピをご紹介します。

材 料 (20個分)

無塩バター.....50g
砂糖.....40g
卵(Lサイズ2個).....60g
薄力粉.....50g
ベーキングパウダー(小匙1)....4g
レーズン.....50g

作り方

- ①ボールにバターをいれクリーム状にして砂糖を加えよくかき混ぜ、卵を加えさらに良く混ぜます。(卵は一個づつ加える。)
- ②湯で戻したレーズンを加えて混ぜます。
- ③薄力粉、ベーキングパウダーと一緒に混ぜて加え、生地をきるように軽く混ぜます。
- ④クッキングシートを敷いた鉄板に3~4センチくらいの大きさにして並べ、170~180℃で13~15分位焼きます。



みらい

6

わくわくが いっぱい!

どんぐり保育園 だいこん掘り



初めて大根を植えてこんなに大きく育ったよ。“スッポン!!”

わらしべ第二保育園



大きな大きなケーキを作ったよ!公園で拾ってきたどんぐりを飾って。みんなでお誕生日会しようか!

東大成ひなた保育園

おおきなあれ!



発表会で演じる「おおきなあぶ」にちなんだ冬野菜のかぶを園庭にある畑で育てています。おおきなおおきなあぶになれ!と子どもたちも収穫を楽しみにしています。

あいう園浦和美園ウイングシティ保育園

なにがいのかなあ~?



保育園のそばの貯水池には、虫・カエル・魚・鳥などたくさんの自然があります。子どもたちにとっても新しい発見があり、大好きな場所です。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。

広報誌「みらい」の校正をして、皆様様に提供して頂いた写真には、その時の子ども達の思いや物語がたくさん詰まっていますね。時代が変わり社会が変わっても子ども達の心は変わらないのだなあと拝察しています。

保育士不足が叫ばれる昨今、離職の無い、働きやすい環境作りが求められています。カメラのレンズを通して「子ども達の笑顔のために頑張ろう」と思うこの頃。そして、子ども達の幸せのために自分が生かされていることに気づきます。園の子ども達の笑顔は私たちの宝です。処遇や待遇の改善も大事ですが、職員間で子ども達の成長を語り合えることもより良い職場環境の一つだと思います。仲間と共に保育園という宝箱を笑顔でいっぱいにしていきましょう。今年も心温まる写真やエピソードをお待ちしています。

広報部 大原宏美

保・育・園・紹・介



くすのき保育園 園長 高橋 芳美

JR宮原駅から徒歩7分、日進駅から徒歩12分と便利な所に建っているくすのき保育園ですが毎日子ども達の笑顔、泣き顔、ドヤ顔等様々見られ楽しく、木の温もりを大事にした木造2階建の園です。

開園8年目になりますが、北区の認可私立保育園ではもう中堅に…?! (まだまだ新人です! と言いたところですが…)。地域の方々は優しく、前のアパートのおばちゃんは子ども達の人気者! 良く声をかけてくれますし、他の方々も温かく見守ってくださいます。

食育に力を入れており、近くに畑を借りて野菜作りをしたり、筍の収穫をしたり、2階のベランダでのいちご狩りなど季節の旬の野菜が給食室に届けられます。又、年の始めには大ガマで新大豆を煮るところから始まる、味噌づくりは開園の時から取組んでいる行事の1つです。理事長先生が計算してくれた塩、麹、煮汁を混ぜる作業は子ども達も楽しんで参加し、約1年後には給食室と各家庭に美味しい味噌として登場します。味はとてもまろやかで保護者の皆さんにも好評です。

『子は宝』という理念の基、60名定員のアットホームな雰囲気の中、たくさん遊び豊かな経験と体験を通し、物事への興味・関心や考える力をつけて欲しいと願いながら保育にあたっています。



浦和たいよう保育園 園長 海田美奈子

「明日は 子どもたちのために 子どもたちは 明日のために」

私たちの保育園は浦和駅からすぐそばにあります。西口の賑やかな街並みが続く中、3分程歩くと、優しさ、協調性をあらわす「クリーム色」と、失敗しても諦めない元気な「オレンジ色」、そして安らぎと安定の「緑色」の建物が見えてきますが、これが「社会福祉法人まあ愛恵会 浦和たいよう保育園」です。

定員60名の小さな保育園ではありますが、玄関を歩入ると、0歳児から5歳児までのエネルギー熱気と笑顔とご挨拶で皆さんを迎えてくれることでしょう。1クラス8〜11人の小さなクラスで育ってきた子どもたちは、家族のような友だちと遊び、協力し、困難に打ち勝ち、達成し、時にはケンカをし、日々成長し続けています。子ども、先生、保護者の方々と距離がとて近く、一人ひとりと深く関わった目の届く保育を実践していることが浦和たいよう保育園の特色です。

＜保育理念＞

子ども一人ひとりを大切に、家庭的な雰囲気の中、園児が自ら伸びる力を援助し、また地域から愛される保育園を目指す

＜保育方針＞

心身ともに健やかで逞しさをもった子どもの成長を促す保育

＜浦和たいよう保育園の目指すことも像＞

- ・正しい基本生活習慣を身につけていることも
- ・集団生活を通して明るく元気に遊べることも
- ・正しい価値観を持ち、思いやりのあることも
- ・豊かな創造力・社会力として人間力の基礎を身に付けたことも



まきば保育園 園長 秋元 一美

まきば保育園は、南区にある家庭保育室保育園ミルクハウスとしてスタートし社会福祉法人まきば会の第一号園として平成22年に開園しました。アーバンパークライン大和田駅より徒歩5分。線路沿いのページとピンクの園舎で定員60名の保育園です。

園の特色

- ①小規模認可保育園だからこそ出来る家庭的な保育
- ②日本の伝統的な行事を加えた、楽しい行事
- ③家庭との連携を十分に取しながら、共に子育てをしていける職員

保育目標『笑顔あふれる、心と体の元気な子』

沢山の行事と日々の活動を通し乳幼児期だからこそ必要な経験を得て、生きていく力を身に付けられるような保育を行っています。例えば、近隣の老人ホームとの交流や近くの畑で農作業を通して地域の方との交流。魚解体ショーや農作物作りを通して生命を頂いて自分が生かされていることに気づいたり、薪で炊くドラム缶風呂やザリガニ釣り体験など、自然に触れる機会も大切にしています。

今後も変わることなく、子ども達と共に成長していけるよう精進して参ります。



あおぞら西保育園 園長 金井塚 美奈子

あおぞら西保育園は、平成23年4月に社会福祉法人誠心会の第2園目として、定員90名で開園しました。西大宮駅徒歩8分のところに位置しております。園庭には、山桜や柏、トベラ、ススキ等行事にちなんだ樹木があり、毎年 冬には大きな八朔も実ります。園舎は窓が大きく、保育室に自然光がたっぷり注ぐ造りになっています。また、周辺には畑や緑が多く、四季の移り変わりを目で見えて楽しむことができます。園近くの野原観光農園にお散歩に出掛けては、季節の花や野菜の成長をみて楽しんでます。

本園では、開園当初より食育に力を入れており、年齢に応じて「食」に触れる様々な活動を取り入れております。毎年、年長児が農家さんより稲の苗の植え方を教わり、育てています。収穫から脱穀、そしてお茶碗によそうまでを子ども達が行います。小さな苗から、いつも食べているご飯になるまでに、たくさんの工程があることに驚く子ども達。炊飯器を開けた時、ランチルームには子ども達の歓声が響き、お米一粒ひと粒をとて大切に食べる様子が印象的な食育活動です。

食育活動の他にも幼児組では縦割り保育や専門の講師による体操指導や英会話のレッスンを取り入れています。これからも地域の特性を活かし、子ども達の健やかな成長を、職員全員で支えていくような温かな保育を心掛けて参りたいと思います。